

ディスクロージャー誌

令和元年度上半期

淡路日の出農業協同組合

住所 兵庫県淡路市志筑3112-14

電話 0799-62-6200(代)

目 次

ごあいさつ	
JAのプロフィール	1
1. 経営理念	2
2. 経営方針	2
3. 事業活動のトピックス	3
4. 農業振興活動	4
5. 地域貢献情報	5
6. JA淡路日の出の自己改革の取り組み状況	6
7. 事業の概況(令和元年度上半期)	8
(1)主要事業	8
(2)事業実績の推移	9
(3)有価証券の時価情報	9
(4)自己資本比率(単体)	9
8. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況	10

ごあいさつ

日頃、皆さま方には格別のご愛顧をいただき厚くお礼申し上げます。

JA淡路日の出は、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当JAに対するご理解を一層深めていただくために、当JAの主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、わかりやすくまとめた「令和元年度上半期ディスクロージャー誌」を作成いたしました。

皆さま方が当JAの事業をさらに安心してご利用いただくため、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

淡路日の出農業協同組合
代表理事組合長 相坂 有俊

プロフィール(令和元年9月末)

設 立	平成5年10月1日(6JA合併)
本 店 所 在 地	兵庫県淡路市志筑3112-14
出 資 金	18億円
総 資 産	2,748億円
組 合 員 数	17,209名
役 員 数	24名
職 員 数	300名
支 店 数	11支店

1. 経営理念

当JAは、洲本市・淡路市を事業区域とした都市近郊農村地帯で、農業者をはじめ地域住民の方々が組合員となって、相互扶助(お互いに助け合い、お互いに発展していくこと)を共通の理念として運営している協同組織です。

当JAの資金は、その大半が組合員および地域住民の皆さまなどからお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当JAでは資金を必要とする組合員および地域住民の皆さま方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当JAは、地域の一員として、農業および地域の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。そのため、JAの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、食料の安全性の確保、環境保全・地域社会への貢献という社会的使命をはたすための諸活動を展開しています。

協同の力で、農業とくらしに貢献するJAづくり
～ JA 淡路日の出は、協同の理念を学び実践を通じて、
「農業」と「くらし」を豊かにし、信頼をきずきます。～

2. 経営方針

◇ 「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化による持続可能な農業の実現」

農業をとりまく環境が厳しい状況となる中で「農業者所得の増大」や「農業生産の拡大」、「地域の活性化による持続可能な農業」の実現に向けて、販売力強化や生産力強化、生産コスト低減ならびに農業経営管理支援を行います。さらには、農業の有する多面的機能の発揮、地域営農振興計画および経済事業改革を実現します。

◇ 地域に根ざした協同活動とJA事業の展開

JAの総合事業(営農、販売、購買、生活、信用、共済等)を通じて協同組合運動に取り組み、組合員と地域に必要とされる組織づくり、地域貢献活動を実践します。

◇ 高度な事業運営体制の構築と魅力ある職場づくりの実践

健全な財務基盤の維持ならびに法令等遵守態勢の確立のため、財務体質の健全性向上に努め、リスク管理態勢とコンプライアンスを重視した職場づくりに取り組みます。また、地域農業の担い手や青年・女性などの多様な組合員の声をJA運営に反映します。

さらに、自己改革の取り組み施策を着実に実践するため、経営資源のシフトや人材育成を通じ、営農・経済事業の体制を強化します。

3. 事業活動のトピックス(令和元年度上半期)

月 日	おもな行事
4月1日	平成31年度新採用職員入組・配属式
4月4日	JA淡路日の出津名支店年金旅行(和歌山)
4月5日	JA淡路日の出五色支店年金旅行(和歌山)
4月8日	JA淡路日の出北淡支店年金旅行(和歌山)
4月9日	JA淡路日の出一宮支店年金旅行(和歌山)
4月10日	JA淡路日の出洲本支店年金旅行(和歌山)
4月15日	淡路和牛女性活性化大会
4月22日	淡路島たまねぎ生産者大会
4月26日	農産物直売部会総会
5月13日～16日	JA全国監査機構期末監査
5月17日	淡路和牛愛好女性会総会
6月8日～9日	プロ野球ウエスタンリーグ公式戦「阪神対広島」 (県立佐野運動公園)
6月22日	第26回通常総代会
6月27日	ピーマン部会出荷協議会
6月28日	淡路和牛育種組合総会
7月10日	JA淡路日の出東浦淡路支店年金旅行(京都)
7月10日	JA淡路日の出和牛ヘルパー部会総会
7月16日	淡路和牛多頭生産研究会総会
7月19日～20日	農機・自動車合同展示会
7月23日	いちじく部会総会
7月26日	淡路和牛肥育研究会総会
7月31日	淡路和牛改良組合総会
8月9日～11日	若トラを励ます会「阪神応援ツアー」対広島戦
8月10日	北淡支店感謝祭
8月17日	東浦淡路支店感謝祭

月 日	おもな行事
8月22日	青色申告部会研修会
8月25日	洲本支店感謝祭
8月28日	農産物直売部会POP研修会
8月31日～9月1日	若トラを励ます会「阪神応援ツアー」対巨人戦
9月2日～5日	会計監査人監査(期中Ⅰ)
9月4日	淡路島いちじく品評会
9月12日	淡路市畜産共進会(淡路家畜市場)
9月14日	洲本市畜産共進会(アグリ公園)
9月28日	第26回淡路日の出畜産共進会

4. 農業振興活動

当JAは、第3次地域営農振興計画を策定し、農業者所得の増大と農業生産拡大等による持続可能な農業の実現に取り組みます。また、販売力強化および生産力強化とコスト低減ならびに農業管理支援、さらには経済事業改革にも取り組みます。

(1) 農業者所得の増大

生産の効率化や販売の多様化、ブランド力による差別化を図り、新たな提案により農業者所得の向上に取り組みます。

(2) 農業生産の拡大

農業者と地域のJAが一体となり地域農業が活性化出来る体制を整備し、地域に密着した組織基盤の確立に取り組みます。

(3) 地域農業の活性化

地域の特色を活かした農産物を継承し、活力ある地域農業づくりを図るため、地域に密着した農業基盤の確立に取り組みます。

5. 地域貢献情報

当JAは、JAの協同組合活動の原点である「組合員の営農と暮らし」を守り、地域農業の振興に努めるとともに、地域社会の発展に貢献するため様々な活動を展開しています。

(1) 社会貢献活動

① 環境問題への取り組み状況

「地球にやさしい農業」への取り組みとして、定期的に廃プラスチック・ビニール等の回収および不要農薬の回収を実施しています。

(2) 地域貢献活動

① 地域からの資金調達の状況

ア. 貯金残高(令和元年9月末現在)

(単位:百万円)

種 類	残 高
当 座 性	45,507
定 期 性	204,645
小 計	250,153
譲 渡 性	0
合 計	250,153

② 地域への資金供給の状況

ア. 貸出金残高(令和元年9月末現在)

(単位:百万円)

種 類	残 高
農業近代化資金	8
その他制度資金	72
農業関連融資	333
事業関連融資	8,333
住宅関連融資	23,221
生活関連融資	804
そ の 他	247
合 計	33,023

③ 文化的・社会的貢献に関する事項

ア. 福祉活動

介護保険制度の訪問介護事業者の指定を受け、サービスの提供を行っています。また、高齢者への生活介護援助・助け合いなどの活動に取り組んでいます。

イ. 職員の地域貢献活動への参加

職員は、地域清掃活動や消防団活動をはじめとした社会活動に積極的に参加し、地域に根ざした活動を実践しております。

ウ. スポーツイベントの開催

スポーツを通じて、青少年の健全な育成のための活動を行っています。

6. JA淡路日の出の自己改革の取り組み状況について

(1) 自己改革の考え方について

JA淡路日の出では、農業者ニーズに応え、担い手をサポートし、農業者や地域住民と一体になって「持続可能な農業」と「豊かでくらしやすい地域社会」を実現していくため、「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つを基本とした自己改革を決定しました。この目標を達成するためJAは、自主・自立の協同組合であることを鮮明にし、組合員の意思に基づき、今まで以上の創意工夫を発揮し、積極的に新たな事業展開に取り組みます。

(2) 自己改革の取り組みについて

当JAでは、自己改革の取り組みについて「協同の力で、農業とくらしに貢献するJAづくり」を経営理念とした3か年事業経営計画を基本にしています。

JA淡路日の出 3か年事業経営計画書(平成29年度～令和元年度)

【経営理念】

協同の力で、農業とくらしに貢献するJAづくり

【基本方針】

- ① 農業者所得の増大、農業生産の拡大および地域の活性化による持続可能な農業の実現
- ② 地域に根ざした協同活動とJA事業の展開
- ③ 高度な事業運営体制の構築と魅力ある職場づくりの実践

なかでも、最重要課題である「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」の達成に向けた取り組みについては、『第1次JA淡路日の出 自己改革プログラム』として、役職員が一丸となって実践しています。

(3) 今後の取り組みについて

『第1次JA淡路日の出 自己改革プログラム』に掲げる取り組みについては、3か年事業経営計画および単年度事業計画のなかで重点的に進捗管理を行ない、着実に実践していきます。

引き続き、組合員みなさまとともに自己改革を実践しますので、ご協力をお願いします。

令和元年度上半期 第1次自己改革プログラム取り組み状況

基本方針	取り組み事項	令和元年度目標値	令和元年度上期に取り組んだ事項	令和元年度上期達成値	
農業者所得の増大	農畜産物販売力の強化	部会および製作者の承認を得て申請手続きを開始	いちじく部会役員会で商標登録の概要を説明しました。	部会役員への説明と承認。	
		青果市場巡回:10社 花卉市場巡回:8社	担当部長・担当課長がたまねぎ出荷市場を巡回し、次年度からの施設再編に伴うJAの取り組みを各市場に説明し、協力を依頼しました。 また、季節限定用ダンボールの作成を検討しました。 経済常務・花卉担当者と市場巡回を行いました。	青果市場巡回:10社訪問 花卉市場巡回:8社 7/8、7/10	
		250名(65名増)	御食菜採館店内でのPRおよび広報誌による呼びかけ、営農担当者による部会員加入推進を行いました。	部会員:200名(9/1時点)	
		部会研修24回 御食菜採館2回 職員研修3回	営農担当者を中心とした部会研修会を開催しました。 直売部会員を対象としたPOP研修会を開催しました。 たまねぎ担当者による施設再編に向けた研修会を開催しました。	部会研修会:14回 御食菜採館研修:1回 青果担当研修:1回	
		たまねぎ2回、いちじく2回、ピーマン2回、秋冬作野菜6回、花卉4回、検査員研修3回	全農園芸担当者および市場担当者を招いた出荷者への目慣らし会、検査員の統一目慣らし会を開催しました。	たまねぎ:1回 いちじく:4地区各1回 ピーマン:2地区各1回 花卉:3品種で各1回 検査員研修:米1回	
		ブロッコリー:認証基準を満たす栽培指導書作成 いちじく:販売ルート確保後に県認証の申請を行う	いちじくの2等品販売ルート拡大に取り組みました。	全農兵庫を通じ、いちじくジャム業者に販売	
		2か所	牛白血病病原体感染拡大を防ぐため、希望する放牧予定牛の検査を実施し、陰性牛と陽性牛を分けて放牧するよう指導しました。(4軒) 洲本市で2か所各3aで放牧新規計画を確認しました。	指導:4軒 新規計画:2か所3a	
	300頭	牛白血病検査実施と継続して、ウイルス感染陰性牛生産と保留に努めるよう指導しました。	450戸/612戸 検査実施		
	農業の生産コスト低減	ピッカー・掘り機・溝切機・定植機・トラクターの導入	令和元年度の事業として、リース機械の導入(ピッカー、掘り取り機、差圧式乾燥機)を申請しました。	申請:ピッカー、掘り取り機、差圧式乾燥機	
		販売資材、農薬、肥料の価格据え置き、入札の実施、メーカー一元化	農業仕入業者5社による入札を実施しました。 主要肥料農薬15種類について近隣JAとの価格差を是正しました。	主要肥料農薬15種類の価格は是正を行った。	
		たまねぎ肥料の栽培ごよみ掲載・PR活動 秋冬作野菜集約肥料(園芸化成)を使用した試験栽培	「たまねぎ高度化成」を集約銘柄の「淡路島たまねぎ専用化成」に変更し、令和元年度の栽培ごよみに掲載しました。 「あさひエース」を集約銘柄の「JA園芸化成S500」に変更し、令和元年度の栽培ごよみに掲載しました。	淡路島たまねぎ専用化成 JA園芸化成S500	
		たまねぎ施設・育苗施設の再編 青果市場集約計画書作成 施設合理化案の作成	産地/パワーアップ事業によるたまねぎ撰果施設再編について計画に基づき取り組みました。 強い農業・担い手づくり総合支援交付金による野菜・育苗施設新設について計画に基づき取り組みました。	たまねぎ撰果施設再編 野菜・育苗施設新設	
	農業生産の拡大	地域に密着した農業および組織基盤の確立	資材等の提案:10営農組織 たまねぎ鉄コン出荷:10営農組織	低コスト水稻肥料を1集落営農法人に提供しました。	資材等の提案:1組織
			座学研修:1回 スマート農業に関する現地研修:1回	集落営農組織および大規模農家、認定農業者、担い手選定農家を対象とした「土づくり研修会」を開催しました。	研修会:23営農組合、52名出席
どんとこい(契約栽培):0ha→50ha(令和2年度) はくさい:0ha→2ha キャベツ:2ha→2ha			水稻・野菜育苗施設新設による野菜苗および契約栽培米(どんとこい)の取り扱い等について、推進方策および販売対策について全農兵庫と協議しました。	全農兵庫との協議:4回 部会研修会等でのPR:3回	
地域の活性化	農地の保全と農業生産の環境整備	放牧面積200a	洲本市で2か所各3aで放牧新規計画。 遊休農地活用では、作業環境の良い圃場の確保を検討しました。 農業経営の将来的な取り組みについて検討しました。	新規計画:2か所3a 圃場確保:20a	
		玉ねぎ調査:10回 水稻調査:4回 べと病チラン:3回発行 広報活動:4回	普及センター、全農兵庫、肥料農薬メーカー等と連携し、たまねぎ・水稻の病害虫生育調査を行いました。 べと病対策協議会に参加し、べと病対策蒙チランの配布に参加しました。 水稻病害虫防除の広報活動を行いました。 台風襲来時には、台風前対策および台風後の対応について発信しました。	玉ねぎ調査:5回 水稻調査:4回 べと病チラン:2回発行 水稻広報活動:1回	
	新たな農畜産物の産地づくり	農畜産物出荷者へ啓蒙継続。 栽培履歴簡素化等の様式変更検討。 組織へのPR活動と各研修会での啓蒙。 GAPモデル部会設定:1部会	部会研修等で栽培履歴の記帳・提出の周知徹底を実施しました。	たまねぎ生産者大会(3地区) ピーマン部会総会 各支店開催研修会	
		ハウス再利用による新規作物栽培:1戸	淡路市、北普及センター、洲本農林との4者会議において、情報の共有に向けた取り組みを検討しました。	4者会議:2回	
	組合員農家への経営管理支援	部会員40名(7名増) 個別研修会:5日間 申告反省会:1回 総合相談会:1回	青色申告に向けた経理、消費税増税、軽減税率等について、洲本税務署職員および顧問税理士を招いた研修会を開催しました。	役員会:1回 研修会:8/22 25名出席+営農担当者4名参加	
		実践農家・組織4か所	農業経営モデルプランの検討はできませんでした。	未実施	
	実行額:100百万円 活用件数:50件	総合相談係・金融渉外担当・営農相談担当を中心に、担い手農家や営農組合等を訪問しました。 営農資金、制度資金等のニーズを把握し、資金活用と支援を実施しました。	利子助成対象融資:114,100千円 活用件数:49件		

7. 事業の概況(令和元年度上半期)

日本経済は、輸出や設備投資の増加、雇用環境の改善など緩やかな回復基調にあるものの、マイナス金利政策が続く中依然として個人消費は力強さを欠くなど、先行き不透明な状況が続いています。政府の農協改革集中推進期間は5月末の期限をもって終了しましたが、JAはこれまで取り組んできた自己改革の成果と今後のさらなる取り組みが求められています。

このような情勢のなか、当JAは堅実で健全な経営を基本理念として、次のことに取り組みました。その結果、令和元年9月末日現在の当期剰余金は3億67百万円となり、計画対比87.7%となりました。

(1) 主要事業

① 信用事業

利用者に信用・信頼される地域金融機関としての機能の充実に努めるとともに、新規開拓に取り組み、取引先の拡大をはかりました。

この結果、9月末貯金残高は2,501億53百万円と期首残高に対して102.4%となりました。

また、貸出金は住宅・自動車・教育ローン等の獲得により、9月末貸出金実績は、330億23百万円となりました。

② 共済事業

組合員とその家族、さらには地域住民を含めた幅広い普及活動の展開により、長期・年金・自動車・自賠責共済など必要な人に必要な保障の提供をはかる推進活動を展開しました。

この結果、長期共済の新契約高は9月末現在で192億32百万円の実績となりました。

③ 購買事業

利用者ニーズに応えた安全・安心で適正な商品を提供しました。

この結果、購買品供給高は、9月末現在で11億73百万円の実績となりました。

④ 販売事業

生産者部会を中心に、生産履歴の記帳を徹底し、消費者への食の安全・安心と信頼の確保に努めました。

この結果、販売品販売高は、9月末現在で21億74百万円の実績となりました。

⑤ 指導事業

品質向上に向けた栽培方法やコスト低減に向けた栽培体系の見直し、新たな栽培・防除技術の導入に取り組むとともに、農業の担い手の育成に努めました。

(2) 事業実績の推移

(単位:百万円)

項 目		令和元年9月末	平成31年3月末	平成30年9月末
信用事業	貯 金	250,153	244,333	244,720
	貸 出 金	33,023	32,844	33,468
	預 金	214,175	207,702	208,088
	有 価 証 券	6,492	6,786	7,414
共済事業	長期共済保有高	461,592	469,433	473,802
	長期共済新契約高	19,232	45,653	25,897
	短期共済新契約掛金	280	603	271
経済事業	購買品供給高	1,173	2,346	1,184
	販売品販売高	2,174	5,467	2,499

(3) 有価証券の時価情報

(単位:百万円)

保 有 区 分	令和元年9月末			平成31年3月末		
	取得価額	時 価	評価損益	取得価額	時 価	評価損益
売 買 目 的	-	-	-	-	-	-
満期保有目的	3,905	4,202	297	3,905	4,222	317
そ の 他	2,464	2,587	123	2,736	2,881	145
合 計	6,369	6,790	420	6,641	7,104	463

(注) 1. 時価は市場価格等により計上しています。

2. 取得価格は取得原価または償却原価により計上しています。

3. 満期保有目的の債券については、取得価額を計上しております。

4. その他有価証券については、時価としております。

(4) 自己資本比率(単体)

令和元年9月末	平成31年3月末
20.32%	20.17%

(新BIS基準による)

8. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況

(単位:百万円、%)

債権区分	令和元年9月末	平成31年3月末
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	0	19
危険債権	19	67
要管理債権	—	—
小計(A)	20	86
保全額(合計)(B)	20	86
担保	0	0
保証	19	85
引当	0	1
保全率(B/A)	100	100
正常債権	33,030	32,796
合計	33,051	32,883

(注)1. 上記の債権区分は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(平成10年法律第132号)第6条に基づき、債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として次のとおり区分したものです。

①破産更正債権及びこれらに準ずる債権

法的破綻等による経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

②危険債権

経営破綻の状況にはないが、財政状況の悪化等により元本及び利息の回収ができない可能性の高い債権

③要管理債権

3ヵ月以上延滞貸出債権(元金又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸出債権)及び貸出条件緩和貸出債権(経済的困難に陥った債務者の再建又は支援をはかり、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出債権)

④正常債権

上記以外の債権

(注)2. 平成31年3月末から9月末までの間に、債務者区分の変更が必要と認識した先については、9月末時点の債務者の状況に基づき債務者区分を変更し、各債権額は令和元年9月末時点の残高に修正しています。



JA淡路日の出